

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	(有)ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥 2階		
所在地	旭川市末広4条7丁目5番5号		
自己評価作成日	令和3年4月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0172901407-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が、医療法人の為、医療との連携が密にあり、細やかな支援が出来る。また、医療ニーズが、高まったときにも、馴染の医師や看護師の元、療養やこれまでの生活の継続がつけられる。コロナ禍、ご家族との面会制限が余儀ない中、関わりが途切れる事の無いよう、ライン電話や、電話にて、近況を、お知らせしたり、本人とタブレット越しでは、ありますが顔を見て話ができる環境整備を致しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらい鳥」は旭川市郊外のバス通りに面した住宅地に立地している事業所で、近隣にはバス停や公園、スーパーマーケット、母体法人の病院もあり生活環境に恵まれている。室内は広々とした居間を中心に居室が配置された造りで、窓から明るい光が注いでいる。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾や生花がさり気なく飾られており、家庭的な温もりが感じられる。新たに就任した管理者を中心に、全職員で情報交換しながら利用者の思いに寄り添い、笑顔でその人らしい日々を過ごせるように温かな支援を行っている。母体法人による往診体制や受診支援など医療面でも充実した対応を行っている。定期的な研修を重ねながら、多くの利用者の看取りにも取り組んでいる。食事面では、感染症の流行で外出が難しいため室内で楽しく過ごせるように毎月食事レクを行うなど工夫した取り組みを行っている。職員意見の反映では、新鮮な目で見ることが出来る新しい職員の意見や提案は貴重であると考え、全職員で検討しながら日常業務などに活かして充実した支援につなげている。研修後は全職員が感想を提出して理解を深めるなど、職員の育成にも積極的に取り組んでいる。管理者が毎月電話で利用者の様子を伝えたり写真入りの個別便りを送るなど、それぞれの家族が安心できるように丁寧な対応を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の理解、共有のため、ミーティングや、申し送りの時間を利用し共有に努めている。	ケア理念に「地域の中で共に生きる」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれている。各ユニット入口や職員の机に掲示し、申し送りで唱和している。介護計画作成時やケアで迷った時などに理念に立ち返り、再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中地域との交流は困難を極める。	感染症流行により、近くのスーパーマーケットへの買い物や散歩、庭先で近隣住民と挨拶を交わす程度になっている。感染症の収束状況をみながら、以前のようにボランティアの受け入れや小学生との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、現在は休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ここ1.2年書面にての開催とさせて頂いている。電話、FAXにて意見、助言を頂いている	感染症流行により書面会議を開催し、運営状況や新型コロナウイルス感染症予防への取り組みについて報告し、市役所や地域役員、家族代表に議事録を送付している。会議を実際開催する時も、全家族への会議案内や議事録の送付は行っていない。	会議を開催する時は全家族にテーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見や質問も会議に活かすよう期待したい。書面会議時は、役立つ情報資料なども送付するよう期待したい。議事録は毎回全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面にての運営推進会議後実情に合わせたテーマに絞り意見、助言を頂いている。	管理者交代による変更届を提出したり、書類の記載方法について電話やメールで市役所に確認している。監査の時も分からないことを聞いたり、書類作成のアドバイスを受けている。保護課の担当職員とは、利用者に関して電話で情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を理解できるよう定期的にミーティングで勉強会を開催している。理解度についても、都度確認している。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、勉強会資料に「禁止の対象となる具体的な行為」を添付している。年2回身体拘束に関する勉強会を実施している。胃ろう処置している利用者へのミトン使用について医師と相談し、職員の見守りを強化することで拘束につながらないように取り組んだ事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開催し虐待防止と、早期発見ができるように努めている。		

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターなどでの、研修に参加し、現在1名保佐人を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、不明な事については、後日でも問い合わせできるように雰囲気づくりに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、電話やお会いすることがあったときに、意見や要望を伺って運営に反映できるようつとめて	管理者が、毎月電話で利用者の状況を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、何かあれば個人記録に記入している。「笑顔の花」の個人便りを毎月発行している。家族の意見や要望、職員の気付きなどの記録書類を見やすく整備したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等を利用し意見、希望を聞く機会を設け運営に、反映できるよう努めている。	各ユニットリーダーが職員の意見や要望を事前に聞き取り、会議の中でスムーズに話し合えるように工夫している。新しい職員の今までの職場経験を活かし、日常業務を見直したこともある。管理者は、各職員と年2回個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施。また、力量に応じた研修がうけらるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修や資格取得ができるよう、資格取得に関する費用を助成するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどでの、研修に参加していたがコロナ禍中々実現していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望に添えるよう生い立ち、既往歴などの情報を共有し、ご本人が安心して生活していただける事により、信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族のご苦労などを伺い不安が1つでも排除できるよう努めている。安心してサービスを、受けられるように説明し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況、要望に耳を傾けて、必要とされているサービスの提供に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしをともにする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の取り組みの中、ご理解協力やご理解を頂き、これまでの関係の継続の支援に努めている。	感染症流行前は家族と自宅に帰ったり、温泉や外食、墓参りなどに出かけていた。宗教関係の知人が訪ねて来る利用者もいた。現在は趣味仲間の方から電話や手紙が届く利用者がいる。職員は、利用者の趣味が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努め、孤立感の無いよう、支え合えるような関係作りに配慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に立ち寄って頂いたり、相談して頂けような関係作りに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の様子や言葉から、意向の把握に努めている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握して職員間で情報を共有している。センター方式シートを作成しているが、趣味や嗜好などの情報が少ない利用者が多く、書類の更新期間も長くなっている。	センター方式シート(B-3)に趣味や嗜好の情報を具体的に記入し、変化に応じた追記や定期的な書類の更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、ご本人、ご家族に協力頂きこれまでの生活歴等を把握させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の引継ぎ、個人記録を活用し本人の有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケアを心掛け、プランの評価時、または必要に応じ本人、家族の要望を反映できるようにプランの更新をしている。	家族の意向を聞き取り、担当職員が実施している毎月のモニタリングを基に全職員で評価を行い、4か月ごとに介護計画を作成している。家族の意向を具体的に聞き取りながら、更に介護計画に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行い毎日の申し送りなどで情報を共有し次のケアに繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況だけでなく、ご家族の意向、希望に添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍困難な事が増えたが、その状況での地域資源の利用の仕方を、模索している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される主治医や医療機関を受診して頂けている。出来る限り、ご家族にも、受診の同行の協力を頂いている。	月2回母体法人の医師による往診があり、専門医を受診する時は担当医師の紹介を受けている。家族と受診する時も職員が同行して健康状態を伝えられている。外部受診は個人記録に記入しているが、別紙に時系列で記入したいと考えている。	

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人で協力医療機関のため、看護職員との連携はとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との連携は密にとれており、スムーズに情報交換ができています。他院への入退院に対しても、協力頂き関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや、重度化について説明、同意頂ければ同意書を頂く。毎年、または、必要時に意向の変更の無いかを確認している。	利用開始時に重度化指針と看取り指針の内容を説明し、同意書を得ている。看取りの意向は毎年確認し、同意書を更新している。看取り研修を年2回実施し、看取り指針の見直しについても検討している。この1年で5名ほどの看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や連絡方法を周知している。また、協力医の指示を仰いでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を年2回行い、備品等も定期的に確認し賞味期限切れの無いよう努めている。	感染症流行前は運営推進会議開催時に避難訓練を実施し、消防署や地域住民の協力を得ている。現在は年2回、昼夜の火災を想定した自主訓練を実施している。地震時のケア別対応の話し合いが不十分で、職員の救命講習も感染症の流行により受講できていない。	地震時のケア別対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。また、感染症の収束状況を見ながら職員の救命講習受講を計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修など行い、個人の人格の尊重を心掛けた対応をしている。	年1回、言葉かけや接遇に関する研修を行い、業務の中で気になる点があれば職員間で注意し合っている。個人記録等は他者の目に触れない所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し希望を伝えたり表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気分や体調にあわせ、状況にあった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、洋服選びなど、その人らしい、おしゃれの支援を行っている。		

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(2階)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	体の状況、し好に出来る限り対応し、代替え品で対応している。食器拭きのお手伝いをして頂きながら職員と一緒にいき共有の時間を有している。	母体医療法人の管理栄養士が献立を作成している。調理方法を変更したり、誕生日には寿司など希望の物を楽しんでいる。月に1回程度、食事レクとして焼きそばなど利用者と一緒に作る食事も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を提供。食事や水分摂取量を毎日記録に残し状況に応じた支援が行えるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じたケアを実践し口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状況に応じた排泄介助を心掛けている。出来る限りトイレでの排泄が続けられるよう支援している。	自立している利用者もあり、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。日々の個人記録に排泄状況を記録し、ひと月ごとに記録をまとめている。時間帯や様子を見ながら適切なタイミングで声かけ誘導を行うことで失敗を減らし、排泄の自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、運動などに配慮しながら、それでもコントロールがつかない時には主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望や体調を優先した支援を行っている。	土日以外で一人あたり週2回程度、午前の時間帯を中心に入浴支援を行っている。現在は入浴支援専門の職員もあり、利用者の安心につながっている。入浴剤の使用や入浴時間の希望などの意向を尊重し、可能な限り希望に沿った入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のリズムにあわせ快い環境の提供を心掛けた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を添付し内服薬に対して理解するよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や趣味活動について聞き取り、そこから楽しみ事に繋がるような支援に努めている。		

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍中々外出は、ままならないものの、散歩程度ながら、外に出る機会を、設けている。	天候のよい日は近隣の公園や事業所周辺の散歩、スーパーマーケットへの買い物に出かけている。近所の花壇や桜の木を見ながら外気浴を行うなど、週に1度は外気に触れる機会を設けている。感染症の収束状況を見ながら、以前行っていた旭山動物園や旭山公園などへの外出行事も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で所持され、計画的に使っている方、ホームでお預かりして、希望品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせた、壁飾りや小物を入居者と一緒につくり、家庭的な雰囲気作りに努めている。不快な刺激の無い環境の提供に努力している。	大きな窓から陽射しが差し込むリビングは明るく、広々とし、ゆったりと過ごすことのできる空間となっている。エアコンや加湿器などで温湿度を調節している。利用者と一緒に制作した季節の装飾や利用者の作品、生花が飾られており季節感が感じられ、家庭的な温かみのある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所ですごしていただき、自分の居場所に困らない支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や食器など持参して頂けるよう伝え、入居後は、今までの暮らしに近い環境で生活出来るように支援している。	タンス、クローゼット、ベッドが備えられている居室には、使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれ、壁面には家族写真などを飾っている利用者もいる。趣味に関する道具を持ち込む利用者もあり、以前の生活が継続でき、居心地のよい空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など、利用者が分かり、自ら行動できるように配慮している。また、安全への配慮として、動線には不必要なものをおかず、転倒などにも配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	(有)ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥 3階		
所在地	旭川市末広4条7丁目5番5号		
自己評価作成日	令和3年4月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が、医療法人の為、医療との連携が密にあり、細やかな支援が出来る。また、医療ニーズが、高まったときにも、馴染の医師や看護師の元、療養やこれまでの生活の継続がつけられる。コロナ禍、ご家族との面会制限が余儀ない中、関わりが途切れる事の無いよう、ライン電話や、電話にて、近況を、お知らせしたり、本人とタブレット越しでは、ありますが顔を見て話ができる環境整備を致しました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0172901407-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の理解、共有のため、ミーティングや、申し送りの時間を利用し共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中地域との交流は困難を極める。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、現在は休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ここ1.2年書面にての開催とさせていただいている。電話、FAXにて意見、助言を頂いている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面にての運営推進会議後実情に合わせたテーマに絞る意見、助言を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を理解できるよう定期的にミーティングで勉強会を開催している。理解度についても、都度確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開催し虐待防止と、早期発見ができるように努めている。		

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターなどでの、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、不明な事については、後日でも問い合わせできるように雰囲気づくりに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、電話やお会いすることがあったときに、意見や要望を伺って運営に反映できるようつとめて		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等を利用し意見、希望を聞く機会を設け運営に、反映できるよう努めている。代表に確認の必要な件については確認後書面にて回答している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施。また、力量に応じた研修がうけらように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修や資格取得ができるよう、資格取得に関する費用を助成するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどでの、研修に参加していたがコロナ禍中々実現していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望に添えるよう生い立ち、既往歴などの情報を共有し、ご本人が安心して生活していただける事により、信頼関係の構築を図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族のご苦労などを伺い不安が1つでも排除できるよう努めている。安心してサービスを、受けられるように説明し関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況、要望に耳を傾けて、必要とされているサービスの提供に努める。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしをともにする同士の関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の取り組みの中、ご理解協力やご理解を頂き、これまでの関係の継続の支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努め、孤立感の無いよう、支え合えるような関係作りに配慮し支援している。			

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に立ち寄って頂いたり、相談して頂けような関係作りに努める。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の様子や言葉から、意向の把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、ご本人、ご家族に協力頂きこれまでの生活歴等を把握させて頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の引継ぎ、個人記録を活用し本人の有する力の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケアを心掛け、プランの評価時、または必要に応じ本人、家族の要望を反映できるようプランの更新をしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行い毎日の申し送りなどで情報を共有し次のケアに繋がるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況だけでなく、ご家族の意向、希望に添えるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍困難な事が増えたが、その状況での地域資源の利用の仕方を、模索している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される主治医や医療機関を受診して頂けている。出来る限り、ご家族にも、受診の同行の協力を頂いている。			

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療法人で協力医療機関のため、看護職員との連携はとれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との連携は密にとれており、スムーズに情報交換ができています。他院への入退院に対しても、協力頂き関係づくりに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや、重度化について説明、同意頂ければ同意書を頂く。毎年、または、必要時に意向の変更の無いかを確認している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や連絡方法を周知している。また、協力医の指示を仰いでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練を年2回行い、備品等も定期的に確認し賞味期限切れの無いよう努めている。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修など行い、個人の人格の尊重を心掛けた対応をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し希望を伝えたり表現できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気分や体調にあわせ、状況にあった支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、洋服選びなど、その人らしい、おしゃれの支援を行っている。			

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体の状況、し好に出来る限り対応し、代替え品で対応している。食器拭きのお手伝いをして頂きながら職員と一緒にいき共有の時間を有している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を提供。食事や水分摂取量を毎日記録に残し状況に応じた支援が行えるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じたケアを実践し口腔内の清潔を保持している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状況に応じた排泄介助を心掛けている。出来る限りトイレでの排泄が続けられるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、運動などに配慮しながら、それでもコントロールがつかない時には主治医に相談している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望や体調を優先した支援を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のリズムにあわせ快い環境の提供を心掛けた支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を添付し内服薬に対して理解するよう、努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や趣味活動について聞き取り、そこから楽しみ事に繋がるような支援に努めている。			

グループホームらい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍中々外出は、ままならないものの、散歩程度ながら、外に出る機会を、設けている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で所持され、計画的に使っている方、ホームでお預かりして、希望品を購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせた、壁飾りや小物を入居者と一緒につくり、家庭医的な雰囲気作りに努めている。不快な刺激の無い環境の提供に努力している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所ですごしていただき、自分の居場所に困らない支援をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や食器など持参して頂けるよう伝え、入居後は、今までの暮らしに近い環境で生活出来るように支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など、利用者が分かり、自ら行動できるように配慮している。また、安全への配慮として、動線には不必要なものをおかず、転倒などにも配慮している。			

目標達成計画

事業所名 グループホームらい鳥

作成日：令和 4年 3月 25日

市町村受理日：令和 4年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が、ご家族に周知されていない。	運営推進会議がご家族の意見や質問、希望を言う機会の場になる。	運営推進会議議案を送付し面会時などに意見を聞くなどすることで意見を取り入れられるよう配慮する。	3ヶ月
2	23	センター方式 B-3シート(私の暮らし方シート)に空欄が多い。	本人、ご家族へのアセスメントが、十分になされ、その人らしい暮らしの、一助となる。	本人、ご家族には、時々尋ね新しい事が分かったときには、全職員がシートに加筆や修正を行い情報を共有する。	6ヶ月
3	35	地震時のトイレ中や入浴中の具体的な対応が話し合われていない。	入浴中や排泄中に地震がおきても、羞恥心に配慮し安全に避難出来る。	避難訓練の内容を見直し、より具体的な内容として訓練を行う。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。